

## チャレンジ！！オープンガバナンス 2019 市民／学生応募用紙

地域課題タイトル (注1)	No. 1_1/2_7	タイトル 室蘭に新たな観光客を呼び込むためのアイデア	自治体名 北海道 室蘭市
アイデア名 (注2) (公開)	カラフル自転車		

(注1) 地域課題タイトルは、COG2019 サイトの中に記載してあるエントリー自治体(連合)が掲げる地域課題を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームが応募されるアイデアにつけるものです。アイデアにふさわしい名前を付けてください。

### 1. 応募者情報

チーム名 (公開)	TSKG		
チーム属性 (公開)	<input type="radio"/> 1. 市民によるチーム <input checked="" type="radio"/> 2. 学生によるチーム <input type="radio"/> 3. 市民、学生の混成によるチーム		
メンバー数 (公開)	5名		
代表者情報			大澤 知弥
メンバー情報	氏名 (公開)		塚本 蔵人
			宋 雪
			高 佳佳
			須藤 秀紹

**(注意書き) ※ 必ず応募前にご一読ください。**

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2019\_応募用紙\_具体的チーム名\_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2019 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。 admin\_padit\_cog2019@pp.u-tokyo.ac.jp

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：
 

「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示-非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。

(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公表いたしません)
5. この応募内容のうち、「3. 自治体との連携」は、非公開です。なお、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあり得ます。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。（2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。）

## 2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容、(2) アイデアの理由、(3) 実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

### (1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、課題解決のために、何をやる社会的なサービス（活動）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したり、活用したりしたくなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなわくわく感のあるアイデアを期待します。2ページ以内でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題>

室蘭の観光地への移動手段が乏しい

室蘭の住民が外国人観光客とコミュニケーションを取る場が少ない

<解決アイデアの内容>

#### アイデア

室蘭住民主体の、室蘭観光地向けの自転車貸出システム「カラフル自転車」

#### 室蘭の観光地を巡る上での課題

室蘭の代表的観光地である、「室蘭八景」は、近くまでバスが通っておらず、坂が多いので、歩いて移動することが難しい。そのため、観光客が良い時間を過ごせない。

#### カラフル自転車

花やその他、飾りつけをすることで、カラフルにした電動アシスト自転車を、室蘭に来た観光客が借りることができる。貸し出す場所は、室蘭の住民の家となる。また、室蘭の住民は、貸し出す自転車を自由に飾りつけすることができる。

① 自転車は、QRコードを読み取ることで予約する。QRコードの設置場所は、右図の通りである。様々な場所に設置し、観光客がアクセスしやすいようにする

② QRコードを読み込むと、自転車の予約や、観光地までの地図と、ナビゲーション、返却、履歴が表示されるサイトに接続される。(右図)

自転車を予約するときは、メニュー画面の自転車予約を押すことで、予約画面に進む。予約画面では、借りたい自転車を選び、使用時間や、値段を確かめ、予約することができる。

自転車を借りるときは、地図メニューを押すことで、貸し出してくれる住民の家まで、案内される。住民の家に着いた後は、荷物を預かってもらい、自転車を借りる。その後、目的地までナビゲーションを使い、電動アシスト自転車で向かう。

自転車を返却するときは、借りた住民の家に戻り、返却を行う。

#### QRコード設置場所

飛行場  
バス停留所  
JR 駅  
観光案内版  
自転車  
ウェブサイト



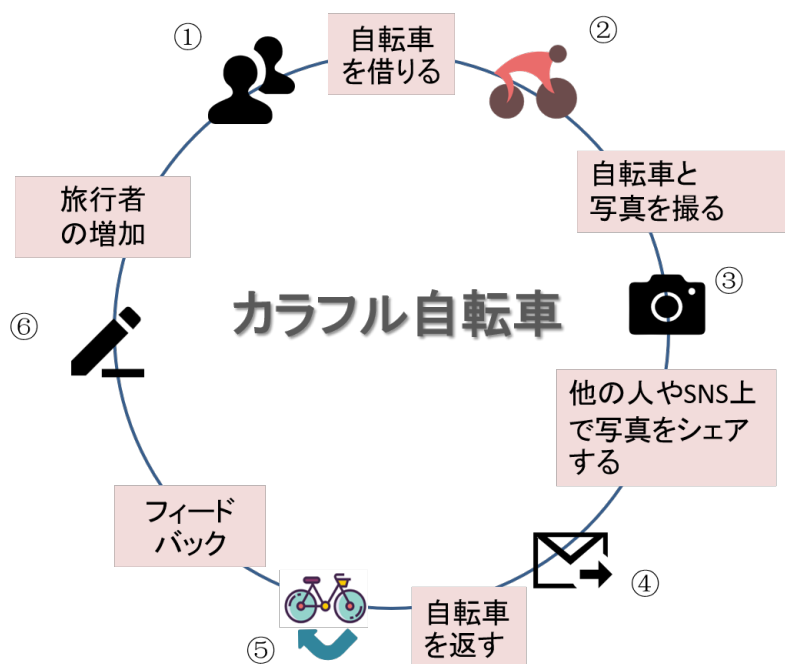
③ 右図は、室蘭の住民が、自転車を貸し出すときに使う画面である。

情報更新メニューから、貸し出す自転車の写真や、貸し出し可能な時間帯、利用料、貸し出し場所等の登録、変更ができる。

予約状況メニューから、自転車の貸し出し希望や、その時間が確認できる。



④ カラフル自転車は、観光客と一緒に、写真撮影することを想定している。そのため、雪が積もり、気温も低いため、自転車の利用が困難な冬は、自転車との写真撮影が主な役割となる。



[カラフル自転車のシステム全容図]

## (2) アイデアの理由（公開）

このアイデアを提案する理由について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ 2 ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類の数値データやアンケート・インタビューなどの資料や関連の計画、既存の施策などの定性データのことを総称します。データは出所を明らかにしてください。

### [観光場所へのアクセス]



上の図は、室蘭市の代表的観光スポット、「室蘭八景」の場所を示した地図である。室蘭八景へのアクセスを以下に示す。①室蘭港の夜景と、③大黒島は、眺めるもので、現地に行く刷毛ではないので、省略する。②測量山：JR室蘭駅より徒歩 50 分(4km)、④絵鞆岬：道南バス絵鞆公園前バス停より徒歩 5 分(0.3km)、⑤金屏風：道南バス地球岬団地バス停より徒歩 5 分(0.4km)、銀屏風：道南バス増市通バス停より徒歩 20 分(1.4km)、⑥マスイチ浜：道南バス増市通バス停より徒歩 15 分(1km)、⑦地球岬：道南バス地球岬団地バス停より徒歩 15 分(1km)、⑧トッカリシヨ：道南バス地球岬団地バス停より徒歩 15 分(1km)。

室蘭八景へのアクセスは、最寄り駅やバス停から近くても、5 分以上歩かなければならない。また、バスの本数も、多いバス停で、1 時間に 1 本程度のため、行きたいときに、気軽に行くことができない。そこで、楽に自由に観光地まで移動するために、電動アシスト自転車を出し出すことを提案する。

### [言語の壁]

外国人観光客の多くは日本語が話すことができず、既存の貸出システムがあつたとしても、その予約は日本語が理解できないと困難なことが多い。

そのため、私たちは自転車の予約を QR コードを介した WEB サイトで行うことで外国人の観光客でもよりスムーズに予約が行うことが可能となっている。

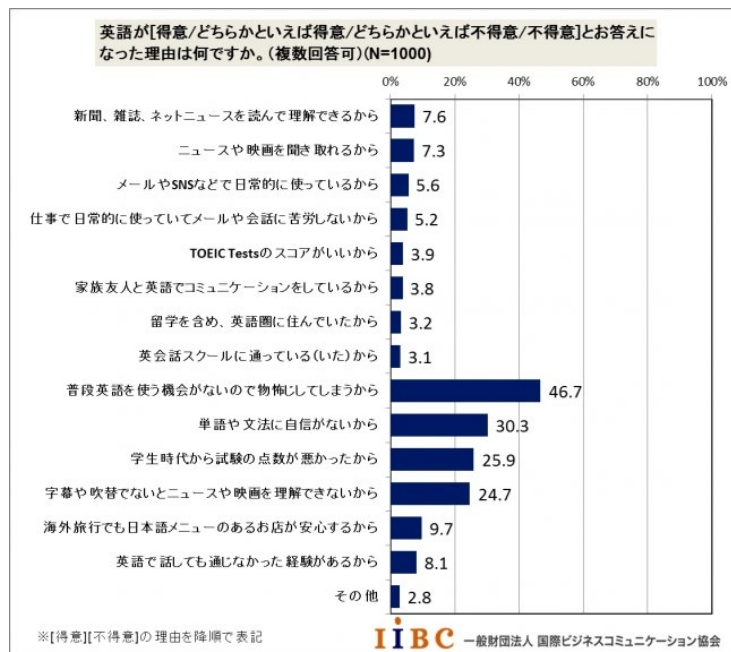
## [外国人とのコミュニケーション]

日本人の半数以上は英語力を向上させたいと考えており、以下のグラフ 2 にも示されるようにその方法としては英語に触れる機会を増やすという回答が最も多くなっている。

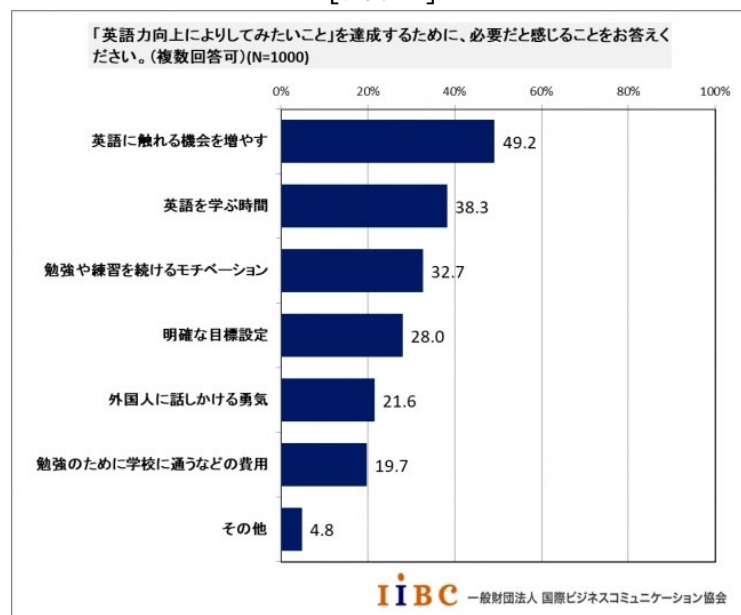
また、グラフ 1 からわかるように英語が苦手という人の多くの理由が普段の生活で英語を使う機会が少ないことから、物怖じしてしまうと回答した人が最も多い。

(<https://www.sankei.com/economy/news/171025/prl1710250075-n1.html>)。

本システムでは貸出対象者が外国人であった場合には、貸し出す側と借りる側でコミュニケーションが発生する。そのため、貸し出す側は英語と触れ合うことにより英語力を向上させるのみでなく、外国人と触れ合うことに積極的な気持ちも抱けるようになると思われるため、このシステムは有用に働くと考える。



[グラフ 1]



[グラフ 2]

### (3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを実現する主体、アイデアの実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの実現にいたる時間軸を含むプロセス、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、アイデア実現までの大まかな流れについて、2 ページ以内でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

#### [必要となる自転車について]

私たちのアイデアでは多くの自転車が必要になると想定できるため、その自転車を室蘭市に住んでいる人が**使用しなくなった自転車**、もしくは**貸し出ししても良いと考えている人**が自転車を貸し出すことで一定数の自転車が用意できると考える。

また、貸し出し料金の一部を市に還元することを前提に、このサービスを行って見たいと考えている住民に**市が自転車を貸し与える**ことも可能だと考えている。

自転車を飾り付ける材料は住民自身に用意してもらい、飾り付けにかかった材料費は**貸し出し料金に材料費に応じて金額を足し合わす**ことで還元することが可能となる。

そのため、基本的に実現にかかる費用は住民に依存すると考える。

#### [自転車の種類]

本アイデアでは室蘭市に坂道が多いことを考慮して**電動アシスト自転車**を貸し出すことを基本的に考えている。アシストが不要な場合は普通の自転車でも良いが、基本的には電動アシスト自転車を利用したいと考える観光客が多いと予想できる。

この電動アシスト自転車に関しては、もともと坂道が多い地域であることから住民のほとんどの自転車もともと電動アシスト自転車であると考えられることができる。

さらに…

**アイデアが活性化していくことで貸し出しする人は段々と数を増やして行くことができると考えられる。**

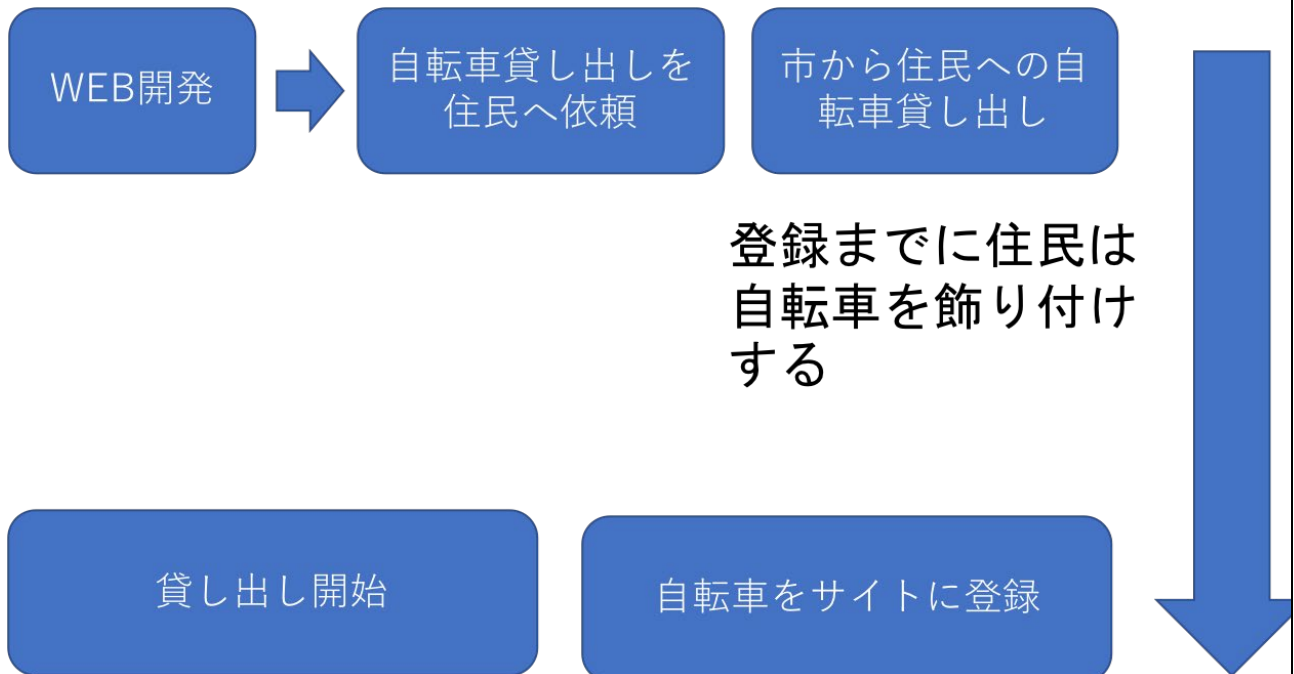
#### [WEB 開発費用]

レンタルシステムのための QR コードや WEB サイトにも開発費用がかかってしまい、この料金は以下サイトによると最低でも 60 万円ほどかかる(<https://www.biz.ne.jp/web/info/03.html>)。

私たちはこの費用について、自転車レンタルシステムが利用されることで得られる収入により回収できることが可能と考えている。

## [実現プロセス]

以下に実現までのプロセス図を載せる。



上記のプロセス図に法って実現を行っていく。

まずは WEB 開発の依頼を行う。WEB 開発の依頼が完了し次第、自転車を貸し出してくれる住民を集める。こちらは WEB 開発の期間に合わせて、サービス開始の確実性が明確になった時に住民に応募をかけます。

また、それと同時に初めは少数でも良いので市から貸し出し用の自転車を貸し出す。この際貸し出し料金が発生する。住民は WEB 開発が終わるまでの期間を目安に自転車に各々で飾り付けを行う。

WEB 開発が終了した後、住民に完成した自転車をサイトに登録してもらい貸し出しを実施する流れとなっている。



